

日本人がきらいな外国人の行動20選

URL : <https://youtu.be/ndvFaSEF-jo>

今回は「日本人がきらいな外国人の行動20選」を学びながら、日本語を勉強
しましょう。

この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字にはふりがながあります。
後半は少しだけ速く（+20%）なり、漢字にふりがなはありません。学習に
お役立てください。

■自己紹介

こんにちは。ワン・メイリンといます。日本が大好きな台湾人です。
私は現在30歳です。お母さんは日本人で、お父さんは台湾人です。
お父さんの仕事の関係で、5年おきくらいに台湾と日本で暮らしています。

今日は、皆さんと同じ外国人という立場で「日本人がきらいな外国人の行動」
というテーマで勉強していきましょう。

日本人は昔からルールを守る習慣があります。私は、日本に限らず、外国に行
くときはなるべくその国の習慣やルールを尊重したいと考えています。きっと、
皆さんもそうですよね？

けど、日本はそれがなかなか難しいところがあります。なぜなら、日本人は他
人と気軽に話すことは少ないからです。それが外国人であればなおさらです。
あまり注意されることはありません。これは「注意してもらえない」という意
味です。注意されたり怒られたりしないから、悪いことはしていないと思わな
いでください。日本人は、何も言わないかもしれませんが、本当はイヤだと思
っていることがたくさんあります。そういうことは、友だちや家族でもない日
本人から教えてもらえることは少ないです。

だから私がこの動画で皆さんにお伝えできればいいなと思っています。
「日本人がきらいな外国人の行動20選」始めていきましょう。

■ 電車やバスで電話をする

日本以外の多くの国では、電車やバスの中で電話をしても怒られることはありません。台湾でも電車やバスの中でみんな電話をしています。きっと、あなたの国でもそうだと思います。

けど、日本では電車やバスの中で電話をすることはルールいはず。私はこれを初めて知ったとき「電車やバスの中で近くの人と会話をする 것과何も変わらないのに、なんで電話はダメなのかな」と思いました。特にルールが決められていなくても、日本人は公共の場でうるさくすることをきらいます。

すぐ近くにいる人と話すより、電話のほうが声が大きくなりがちだから電話はダメなのかもしれません。とても大きな声で電話で話す人がいたら、「声が大きいので、もっと小さな声で話してください」と注意する人がいるかもしれません。注意された人がそれに怒って、電車やバスの中でケンカになるかもしれません。

だから、鉄道会社はそういうトラブルが起こらないように「電車やバスでは電話で話さないこと」というルールを決めました。あなたや私が、電車やバスで電話をすることが良いことだと思うか悪いことだと思うかはあまり関係ありません。日本ではそういうルールがあって、ルールがあるなら守らないといけないというのを覚えておきましょう。

■ バスや電車の中でリュックを背負ったまま立つ

多くの国では、リュックを背負ったまま電車やバスに乗るのは普通のことかもしれません。台湾でも、リュックを背負ったまま電車に乗る人はたくさんいます。しかし、日本では少しちがいます。

バスや電車が混んでいるとき、リュックを背負ったまま立っていると、後ろの人にぶつかってしまうことがあります。

リュックが大きいと、周りの人がめいわくに感じることもあります。

特にラッシュアワーの時間帯は、みんながぎゅうぎゅう詰めで、できるだけ場所を取らないようにしなければなりません。

初めてこれを知ったとき、私はこれが問題になるとは思いませんでした。台湾で同じことをしても誰も気にしないからです。

けど、日本に住んでいる友だちに「リュックを前に抱えるほうがいいよ」と教えられました。

それから、日本人がこの行動をどう思うのかをりかいするようになりました。電車やバスの中でリュックを背負ったままだと、後ろの人が押されたり、場所を取られて不快に思うことがあるのです。リュックを後ろに背負うことで、周りの人たちにどのような影響を与えているか見えづらくなるというのがポイントです。

日本では、バスや電車に乗るとき、リュックを前に抱えるか、足元に置くのがマナーとされています。これは、周りの人にめいわくをかけないためです。日本では「周りの人を思いやる」ことがとても大切です。

リュックを持ち運ぶときも、少し気をつけてみましょう。これだけで、他の人に良いいんしょうを与えられるはずですよ。

■病気なのにマスクをしない

日本では、風邪やインフルエンザなどで咳やくしゃみが出るときにマスクをするのが普通です。これには理由があります。咳やくしゃみでウイルスが広がるのを防ぐためです。特に冬の寒い季節は、マスクをつけている人がとても多いです。これは、自分のけんこうを守るだけでなく、他の人への思いやりでもあります。

私が台湾に住んでいるときは、あまりマスクをつける習慣がありませんでした。けど、日本に住むようになって、「風邪をひいているときはマスクをつけなければ失礼になる」と友だちから教えてもらいました。特に仕事場や学校、電車など人が多い場所でマスクをしていないと、「この人は周りの人のことを考えていない」と思われることがあります。

また、日本ではマスクをつけることがけんこう以外にも役立つと言われていています。

たとえば、かふん症^{しょう}をふせいだり、空気^{くうき}が乾燥^{かんそう}しているときにノド^{まも}を守^{まも}ったりするために使^{つか}われています。そのため、病^{びょう}気でなくともマ^まスク^すをつける人^{ひと}が多^{おほ}いです。

もしかしたら、お住^すまいの国^{くに}や地^ち域^{いき}によっ^よては、マ^まスク^すは顔^{かお}を隠^{かく}したい犯^{はん}罪^{ざい}者^{しゃ}がするものとい^いうイ^いメ^めー^えジ^じをもっ^もっている人^{ひと}もい^いるかもし^しれ^れませ^せん。け^けど、日^に本^{ぽん}では病^{びょう}気^きのとき^{とき}にマ^まスク^すをつけるのはマ^まナー^なです。

日^に本^{ぽん}に^にい^いる^るとき^きに体^{たい}調^{ちよう}を崩^{くず}したら、マ^まスク^すをつける^つこと^とをお^おすす^すめ^めし^しま^ます。そ^それ^れだ^だけ^けで、周^{まわ}りの人^{ひと}から^らのい^いん^んし^しょう^{ょう}が良^よく^くな^なります^らす^すよ。

■ 温^{おん}泉^{せん}でタ^たオル^おル^るを湯^ゆ船^{ふね}に入^いれる

日^に本^{ぽん}のみ^みり^りよ^よく^くの^のひ^ひと^とつ^つに^に温^{おん}泉^{せん}文^{ぶん}化^かがあ^あり^りま^ます。け^けど、日^に本^{ぽん}の^の温^{おん}泉^{せん}に^には、守^{まも}る^るべき^きマ^まナー^ながあ^あり^りま^ます。そ^その^の中^{なか}で^でも、タ^たオル^おル^るを湯^ゆ船^{ふね}に入^いれる^るのはマ^まナー^ない^いは^はん^んです。

日^に本^{ぽん}では、湯^ゆ船^{ふね}はみ^みん^んな^なで^で使^{つか}う^う場^ば所^{じょ}な^なので、き^きれ^れい^いに^に保^{たも}つ^つこ^こと^とが^が大^{たい}切^{せつ}だ^だと^と考^{かん}え^えら^られ^れて^てい^いま^ます。タ^たオル^おル^るを湯^ゆ船^{ふね}に入^いれる^ると、タ^たオル^おル^るにつ^ついて^いる^る汗^{あせ}や^や汚^{よご}れ^れが^が湯^ゆ船^{ふね}に^に広^{ひろ}がる^るかもし^しれ^れない^いので^でい^いや^やが^がら^られ^れま^ます。

私^{わたし}が^が日^に本^{ぽん}の^の温^{おん}泉^{せん}に^に行^いった^たとき^き、タ^たオル^おル^るを^をど^どう^うし^したら^らい^いか^か分^わか^から^らず^ずこ^こま^まり^りま^ました。日^に本^{ぽん}人^{じん}の^の友^{とも}だ^だち^ちが「タ^たオル^おル^るは湯^ゆ船^{ふね}に入^いれ^れず、体^{からだ}を^を隠^{かく}す^すた^ために^に使^{つか}う^うなら^ら湯^ゆ船^{ふね}の^の外^{そと}で^で使^{つか}って^てね」と^と教^{おし}えて^てく^くれ^れま^ました。そ^それ^れ以^い来^{らい}、タ^たオル^おル^るは湯^ゆ船^{ふね}に入^いれ^れず、湯^ゆ船^{ふね}の^の外^{そと}に^に置^おいた^たり、頭^{あたま}に^に乗^のせ^せたり^りす^する^るよ^よう^うに^にし^して^てい^いま^ます。

日^に本^{ぽん}では、湯^ゆ船^{ふね}は体^{からだ}を^をき^きれ^れい^いに^に洗^{あら}った^た後^{あと}に^に入^{はい}る^る場^ば所^{じょ}です。ま^まず^ず体^{からだ}を^をし^しっ^っか^かり^り洗^{あら}って^てから、タ^たオル^おル^るは湯^ゆ船^{ふね}に入^いれ^れない^いよ^よう^うに^にし^しま^まし^しょう。そ^そう^うす^すれ^れば、周^{まわ}りの^の人^{ひと}も^も気^き持^もち^ちよ^よく^く温^{おん}泉^{せん}を^を楽^{たの}し^しむ^むこ^こと^とが^がで^でき^きま^ます。

温^{おん}泉^{せん}はリ^りラ^らク^くス^すする^る場^ば所^{じょ}です^すが、マ^まナー^なを^を守^{まも}る^るこ^こと^とで^で日^に本^{ぽん}人^{じん}の^の温^{おん}泉^{せん}文^{ぶん}化^かを^をよ^より^り深^{ふか}く^くり^りか^かい^いで^でき^きる^ると思^{おも}い^いま^ます。

タ^たオル^おル^るを湯^ゆ船^{ふね}に入^いれ^れない^いよ^よう^う気^きをつ^つけて、日^に本^{ぽん}の^のす^すば^ばら^らしい^い温^{おん}泉^{せん}を^を楽^{たの}し^しんで^でく^くだ^ださい^いね。

■^{やたい}屋台などでクレジットカードを^{つか}使おうとする

さいきん^{にほん}最近では、日本でもキャッシュレス決済が^{けっさい}増えています。が、^{やたい}屋台や^{ちい}小さな^{みせ}お店ではまだ現金しか使えないことが多いです。

^{がいこく}外国ではクレジットカードや^{でんし}電子マネーがどこでも使えるのが普通かもしれませんが、^{にほん}日本では現金しか使えないことも多いです。

^{ちい}小さな^{みせ}お店でクレジットカードが使えない理由はいくつかありますが、もっとも大きな理由はお店側の^{てすりょう}手数料です。たとえば、1000円の商品が売れたとき、クレジットカードが使われると3%などの^{てすりょう}手数料が発生します。この3%はお店がカード会社に^{しはら}支払いをします。つまり、^{みせ}お店は現金だと1,000円もらえますが、クレジットカードだと970円しかもらえないことになります。

^{くわ}加えて、^{みせ}お店でクレジットカードを使えるようにするためには^{けっさいてすりょう}決済手数料とは別に^{べつ}加盟金というものを^{みせがわ}お店側が^{しはら}支払わなければなりません。^{ちい}小さな^{みせ}お店では、そういう^{てすりょう}手数料を支払うことが大変なので、^{げんきん}現金しか使えないことが多いです。夏のお祭りや花火大会などの^{やたい}屋台も現金しか使えません。

^{たいわん}台湾には「^{よいち}夜市」という文化があり、^{よいち}夜市も^{げんきん}現金を使うので、^{たいわんじん}台湾人の^{わたし}私はあまりこまりませんでした。けど、^{ちい}小さな^{みせ}お店でもキャッシュレス決済が^あ当たり前^{まへ}前の^{くに}国の^{ひと}の人が日本に訪れるときは日本の^{げんきん}現金（^{かね}お金）を少し^{すこ}も持っていたほうが^{べんり}便利だと思えます。

■^{かいだん}階段やエスカレーターで急に^{ぎゅう}立ち止まる（^{ひと}人の^{なが}流れを^と止める）

^{にほん}日本では、^{かいだん}階段やエスカレーターで急に^{ぎゅう}立ち止まることは、^{まわ}周りの^{ひと}の人にとって^{めい}めいわくになることがあります。特に、^{とく}つうきん^{じかん}時間や^{ひと}たくさん^{ぼし}の^{ひと}の人がいる^{ばし}場所では、^よ人の^{なが}流れを^{さまた}妨げる^{こうい}行為としていやがられることが多いです。

^{にほんじん}日本人は^{れつ}列を作って^{つく}スムーズに^{うご}動くことを^{たいせつ}大切に^{かんが}考えているため、^た立ち止まる^ど行動が^{ぜんたい}全体の^{みだ}リズムを乱してしまうからです。

わたし はじめ にほん き にも 初めて日本に来たとき、エスカレーターで急に立ち止まり、後ろの人にぶつかられてしまいました。

そのとき、日本人の友だちに「急に止まるのは危ないし、めいわくだから気をつけて」と教えてもらい、少し恥ずかしい思いをしました。

とくに 日本 エスカレーターでは、関東では左側に立ち、右側を歩く人のために空けるといふルールがあります。関西では逆に、右側に立ち、左側を空けます。これを知らずにどちらを空けるかまちがえて立ってしまうと、後ろの人たちがイライラすることもあります。

階段やエスカレーターでは、周りの人の動きをよく見て、自分の行動が邪魔にならないように注意することが大切です。

急に止まる必要がある場合は、端に寄って他の人の邪魔にならないようにしましょう。

これをいしきするだけで、日本でのいどうがもっとスムーズになりますよ。

■ 利き手の反対の手をテーブルの下に置いて食べる

「利き手」というのは自分がよく使う手のことです。私は右手をよく使うので右利きです。

多くの国では、食事しているときに片手だけを使うことが普通かもしれません。しかし、日本では、食事しているときに両手をテーブルの上に出しておくのがマナーとされています。利き手で箸やフォークを持ち、もう片方の手でお椀や皿を支えるのが日本の食事のスタイルです。

反対の手をテーブルの下に置いて食べていると、「食事のマナーが悪い」と思われることがあります。

私も日本に来たばかりのころ、この習慣を知らずに片手で食べていました。そのとき、日本人の友だちから「両手を使うのがマナーだよ」と教えてもらい、とてもおどろきました。

台湾では片手で食べることが特に問題視されないのですが、日本の食事マナーのちがいを知る良いきっかけになりました。

日本では、たとえばお米が入ったお椀やみそ汁のお椀を手にとって食べることが一般的です。

そのとき、片手でお椀を持ち、もう片方の手で箸を使います。

このように両手を使うことで、食べ物がこぼれにくくなり、きれいに食べることができるとい理由もあります。

日本で食事をするときには、両手を使い、反対の手をテーブルの上に出して食べるように心がけてみましょう。

それだけで、日本人から「この人はマナーを知っている」と思ってもらえるかもしれません。

■公共の場でしゃがむ

日本では、公共の場でしゃがむことはあまり良いこととされていません。

特に、えきや街中でしゃがみ込むと、「疲れているのかな」と思われることもあります。道や建物の通路などでしゃがむと、他の人の通行をさまたげてしまうからです。

私も台湾に住んでいるときは、友だちと外でしゃがみながらおしゃべりすることがよくありました。けれども、日本に来てから、それがあまり良い行動ではないと気づきました。

ある日、えきのホームでしゃがんでスマートフォンを見ていると、日本人の友だちに「立ち上がったほうがいいよ」と注意されました。そのとき初めて、「しゃがむことがめいわくなる場合もあるんだな」と知りました。

特に、えきのホームやはんかがいの歩道でしゃがみ込むと、周りの人がさける必要があり、不便を感じさせてしまいます。また、日本では「疲れているなら座れる場所を探すべき」という考え方が一般的です。公園のベンチやカフェなど、しゃがむ代わりに座れる場所を探するのがマナーです。

日本で公共の場にいるときは、できるだけしゃがまないようにしましょう。それだけで、周りの人にめいわくをかけず、良いいんしょうを持たれるでしょう。もし疲れているなら、周りに座れる場所を探してみてくださいね。

■列に並んでとなりの人に話しかける

日本では、列に並んでいるときにとなりの人に話しかけることは、あまり良いこととされていません。日本人は列に並んでいるとき、できるだけしずかに待つことを好みます。知らない人に話しかけられることに慣れていない文化もえいきょうしています。そのため、列に並びながらとなりの人に話しかけると、おどろかれたり、こまった顔をされることがあります。

私が初めて日本で列に並んだとき、前の人に「このお店は人気なんですか？」と聞いてしまいました。その人はおどろいたような表情をして、少しだけ答えてくれましたが、それ以上は会話が続きませんでした。そのとき、「日本では知らない人と話すことが普通ではないんだ」と気づきました。

日本では、列に並ぶときのルールはとてもシンプルです。「しずかに待つこと」です。特に、病院や図書館、電車の切符売り場など、しずかな空間では話しかけること自体がめいわくだと思われることがあります。

一方で、テーマパークやお祭りのようなにぎやかな場所では、少し話すくらいなら問題ない場合もあります。それでも、たくさん話しかけるようなことはしないほうが良いでしょう。

日本で列に並ぶときは、しずかに順番を待つことをいしきしてみてください。それだけで、周りの人から「マナーを守れる人だな」と思ってもらえるはずです。もし話したいことがあるなら、友だちや家族と話すようにしましょう。

■強い香水をつける

日本では、強い香水の匂いをきらう人が多いです。特に、電車やバスなどのせまい空間では、香水の匂いが周りの人にとってめいわくになることがあります。日本人は控えめな香りを好む傾向があり、香水をつける場合でも、ほんの少しだけにするのがマナーとされています。

私も初めて日本に来たとき、いつも使っている香水をそのままつけていました。しかし、電車の中で近くにいた人が少し顔をしかめているのを見て、「もしかして、私の香水が強すぎるのかな？」と思いました。その後、日本人の友だちに相談したところ、「日本では香りが強いとめいわくだと思われることがあるよ」と教えられました。

それ以来、香水を控えめに使うようになりました。
日本では、無香料のデオドラントや石けんのような自然な香りが好まれることが多いです。また、しょくばや学校などの公共の場では、香水をつけない人もたくさんいます。

特にアレルギーや体調にえいきょうを受ける人もいるため、香りには注意が必要です。香水をつけるときは、周りの人にめいわくをかけないくらいの香りの強さにすることを心がけましょう。
日本では「控えめ」が好まれる文化なので、香水もほんのり香るくらいにしておくといいでしょう。
それだけで、周りの人との関係もスムーズになるはずです。

■音を立てて食事をする

日本では、食事中に口を閉じずに音を立てて食べることは、マナーいはんとされています。たとえば、ガムやおかしを食べるときに「くちゃくちゃ」と音を立てるのはマナーいはんです。他にも、飲み物を飲むときに「ゴクゴク」という音がすると、周りの人に不快いんしょうを与えてしまうことがあります。

私も以前、台湾で家族と食事をしているときは、音を立てることをあまり気にしていませんでした。しかし、日本で食事をするようになり、「音を立てないようにするともっといいよ」と教えられたことで、気をつけるようになりました。それ以来、口を閉じてしずかに食べることを心がけています。
ただし、例外として、日本ではラーメンや蕎麦を食べるときに「すする音」を立てるのは許されている、むしろ自然なこととされています。これは、熱い料理を冷ましながらかけるという理由があるからです。

日本での食事中は、できるだけしずかにすることをいしきしてみてください。周りの人を不快にさせることなく、楽しく食事をする事ができるでしょう。そして、ラーメンや蕎麦を食べるときだけは、思い切り「ズズツ」とすすってみても大丈夫ですよ！

ただ、台湾にいるとき、日本人の観光客がめん料理をズズッとすすりながら食べていると、「音をたてながら食べてるなあ」と少しだけ気になります😅
なぜなら、台湾人はめんを食べるとき、あまり音をたてないからです。国によって食事の食べ方やマナーはちがうことがよくわかりますね。

■後ろの人を気にせずかさをもち歩く

日本では、雨の日にかさを使うときや持ち歩くとき、周りの人に気を使うのがマナーとされています。特に、電車やバスの中、こんざつした歩道では、かさの先が後ろの人に当たらないようにすることが大切です。

かさがぬれていると、周りの人の服や荷物を汚してしまうこともあります。

私が日本に住み始めた頃、雨の日にぬれたかさを普通に持ち歩いていました。しかし、電車の中で友だちから「ぬれたかさはカバーに入れるか、なるべく自分の足元に置いておいたほうがいいよ」と教えてもらいました。

それ以来、かさを持つときは、後ろや横の人に当たらないように注意するようになりました。

それにもっとも危険なのは、大人が持つかさの高さは小さい子どもの顔や目の高さだという点です。

日本では、多くのえきやお店でかさを入れるビニール袋が無料で提供されています。これを使ってぬれたかさをカバーするのが一般的です。また、歩いているときも、かさをできるだけ垂直に持つことで、周りの人に当たらないようにしています。

雨の日に日本を訪れるときは、かさの使い方にも少し気をつけてみてください。ぬれたかさをそのまま持ち歩くのではなく、カバーに入れたり、自分の近くで管理することで、周りの人へのはいりよができます。それだけで、周りの人に「気を使える人だな」という良いいんしょうを与えることができるでしょう。

■トイレのドアをしっかりと閉める

日本では、トイレを使っている時も、使っていない時も、ドアをしっかりと閉めることがとても大切なマナーとされています。

ドアが半分開いていたり、きちんと閉まっていなかったりすると、周りの人が「このトイレは使えるのかな？」「誰かが使っているのかな？」と迷ってしまいます。それだけでなく、ドアが開いていることで、気まずい気持ちになったり、不快に感じる人もいるかもしれません。

そのため、日本では、トイレを使うときや使い終わったあとに、ドアがちゃんと閉まっているかを確認することがマナーとされています。

特に、公共のトイレでは、ドアをきちんと閉めることで、自分のプライバシーを守れるだけでなく、周りの人にも安心感を与えることができます。トイレを使っているときは、ドアにカギをかけることが当たり前です。日本の多くのトイレでは、ドアの鍵をかけると「使用中」や「空いています」と表示される仕組みになっています。この表示があることで、他の人はトイレが使えるかどうか一目で分かるので、鍵を閉めることがとても重要です。

また、トイレを使い終わったあとも、ドアを閉めておくのが普通です。ドアが開いたままだと、次に使おうとする人が気まづくなったり、トイレが使われているのか空いているのか分からず困ってしまいます。

台湾では、使っていないトイレのドアを開けておくことが多いので、日本のこうした習慣に慣れるのには少し時間がかかりました。ですが、日本で生活するようになり、このルールの大切さがよく理解できました。ドアをしっかりと閉めるだけで、周りの人に気を遣うことができ、快適な空間をつくることができます。

トイレを使うときは、使っている間はもちろん、使い終わったあともドアがきちんと閉まっているかを確認しましょう。それだけで、他の人も気持ちよくトイレを使うことができるようになりますよ。

■しずかな場所でさわぐ

日本では、図書館や美術館、病院、電車の中など、しずかに過ごすべき場所でさわぐことはマナーいはんとされています。こういった場所では、他の人が集中したり、リラックスしたりしているため、しずかにすることが求められます。また、カフェやレストランなどでも、周りの人がしずかに過ごしている場合は、声を抑えて会話するのがマナーです。

私が初めて日本の図書館を訪れたとき、友達と少し大きな声で話してしまい、図書館のスタッフから「しずかにしてください」と注意されました。台湾では図書館で少しくらい話すのは珍しくないのですが、そのときはとてもびっくりしました。

日本では「しずかな場所では音を立てない」ことが非常に大切だと学びました。特に子どもがさわいでいる場合、親がすぐに注意しないと周りからきびしい目で見られることがあります。日本では、子どもが大声を出したり走り回ったりしていると、親がしっかり対応するべきだと考えられています。

台湾では、子どもが泣いたりさわいだりしても、きびしい目を向けられることはほとんどありません。

しずかな場所では、自分の行動が周りの人にどうえいきょうするかをいしきすることが大事です。声の大きさを抑えたり、必要があれば場所をいどうしたりすることで、日本のしずかさを大切にする文化に馴染むことができますよ。これを心がけるだけで、周りの人からのいんしょうが良くなるはずですよ。

■ 食事を残す

日本では、食事を残すことはあまり良くないこととされています。特に、作ってくれた人やお店の人に対して失礼だと考えられることがあります。「食べ物を大切にす」という考え方が日本には根付いており、食事を残すことは「かんしゃの気持ちが足りない」と思われる場合もあります。

私も最初は、少しでもお腹がいっぱいになると食べ残してしまうことがありました。しかし、日本人の友だちに「全部食べるのがマナーだよ」と教えられました。なるべく注文する量を調整したり、少しずつ食べたりするように気をつけています。日本では、外食のときに自分が食べきれない量を注文するのが基本です。

また、お弁当や家庭での食事でも、残さないように心がけることが大切です。最近では、「食品ロス」を減らすために、食べ物をムダにしないことが特に大事なことだと考えられています。もしどうしても食べきれない場合は、お店で「持ち帰り（テイクアウト）」が可能かどうかを確認してみるのも良い方法です。

ただし、生ものや一部の料理は持ち帰りができない場合もあるので注意しましょう。台湾では、食べきれない食事をテイクアウト用のパックに入れてもらうことがよくあります。けど、日本では食品の安全を考えて、それができないこともあります。たしかに、食品の知識がない客が食事を持ち帰るのは、気温や保管方法などによっては腐ってしまうこともあるので、私はなっとくしました。

また、^{くに}国や^{しゅうぎょう}宗教によって、^{しょくじ}食事をすべて^た食べ^き切らず、^{かみさま}神様の^{すこ}ために^{のこ}少しだけ^だ残すというケースもあります。そのようなケースはありますが、^{にほん}日本では^だ出された^{しょくじ}食事はすべて^た食べることが^い良いことだと^{かんが}考えられていることを^{おぼ}覚えておいてください。

^{にほん}日本での^{しょくじ}食事では、「^た食べ^{もの}物を^{むだ}ムダに^{しない}しない」という^{きもち}気持ちを^{たいせつ}大切に^{して}してみてください。それだけで、^{まわ}周りの^{にほんじん}日本人に^い良い^{いんしょう}いんしょうを^{あた}与えることができる^{はず}はずです。

■^{ひと}人を^ま待たせる（^{じかん}時間に^{うるさい}うるさい）

^{にほん}日本では、^{じかん}時間を守ることが^{ひじょう}非常に^{たいせつ}大切とされています。^{やくそく}約束の^{じかん}時間に^{おく}遅れると、^{あいて}相手に^{たい}対して^{しつれい}失礼だと^{おも}思われることが^{おほ}多いです。^{にほんじん}日本人は^{じかん}時間に^{きびしい}きびしいため、^{すうぶん}数分の^{おく}遅れでも「^ま待たされた」と^{かん}感じる人がいます。^{ひと}逆に、^{ぎやく}予定より^{よてい}早く^{はや}着くことが^い良い^{いんしょう}いんしょうを^{あた}与えることもあります。

^{わたし}私も^{いぜん}以前、^{にほんじん}日本人の^{とも}友だちとの^{やくそく}約束に^{ぶんおく}5分^{おく}遅れてしまったことがあります。^{そのとき}そのとき、^{とも}友だちは^{とく}特に^{おこ}怒り^ああせ^まませんでした^がが、「^{これから}これからは^{じかん}時間に^{よゆう}余裕を^も持つて^く来るように^{おし}すると^{いいよ}いいよ」と^{おし}やさしく^{おし}教えて^{もら}もらいました。^{そのけいけん}その^{けいけん}けいけん以来、^{わたし}私は^{やくそく}約束の^{じかん}時間の^{じゅう}10分^{まえ}前には^{とうちゃく}到着する^{ところ}ように^{こころ}心がけています。

^{にほん}日本では、^ま待ち^ああわせ^{だけ}だけでなく、^{しごと}仕事や^{がっこう}学校でも^{じかん}時間を守ることが^{もと}求められます。^{とく}特に^{でんしゃ}電車や^{バス}バスの^{じかん}時間が^{せいかく}正確なので、それを^{きじゅん}きじゅんに^{して}して^{スケジュール}スケジュールを^た立て^{やす}やすいです。^{ちやく}遅刻すると、「^{ルーズ}ルーズな^{ひと}人」や「^{しんらい}しんらいできない^{ひと}人」と^{おも}思われることがあるので^{ちゅうい}注意が^{ひつよう}必要です。^{もし}もし^{じかん}時間に^{おく}遅れ^{ばあ}ばい^いいような^{ばあ}場合は、^{できる}できるだけ^{はや}早く^{あいて}相手に^{れんらく}連絡を^い入れることが^{たいせつ}大切です。^{それ}それだけで、^{あいて}相手の^{ふまん}不満を^{すこ}少しでも^{へらす}へらすことができます。

^{にほん}日本では、「^{じかん}時間を守^{まも}ることは^{あいて}相手を^{たいせつ}大切に^{する}すること」という^{かんがえかた}考え方が^ああるので、^{じかん}時間に^{せいかく}正確であることを^いいし^ききして^{みて}みてください。^{そう}そう^{する}することで、^{しんらい}しんらいを^え得られる^{よう}ようになる^{はず}はずです。

■^{いえ}くつを^{なか}はいた^{はい}まま^{いえ}家の中^{はい}に入る

^{にほん}日本では、^{いえ}家の中^{はい}に入るときに^{くつ}くつを^ぬ脱ぐ^{のが}の^ああたり^{まえ}前と^まされて^{います}います。^{くつ}くつを^{はい}はいた^{まま}まま^{いえ}家の中^{はい}に入ると、^{ゆか}床や^{たたみ}たたみを^{よご}汚して^{しま}しまうため、^{ひじょう}非常に^{しつれい}失礼だと^{かんが}考えられています。

げんかんでくつを脱ぐことは、せいけつさを保つだけでなく、その家に住んでいる人へのれいぎでもあります。私が初めて日本の友だちの家を訪れたとき、うっかりくつをはいたままげんかんを上がりかけてしまいました。そのときは、友だちがすぐに止めてくれたので大丈夫でしたが、そのときとても恥ずかしい思いをしました。それ以来、日本ではくつを脱ぐ習慣をいしきするようになりました。げんかんでは、くつを脱いで揃えるのがマナーとされています。

日本の多くの家では、スリッパが用意されており、くつを脱いだ後はスリッパをはいて室内を歩きます。また、たたみの部屋ではスリッパも脱いで足を直接たたみに置くのが一般的です。

日本に住んだり訪れたりするときは、家に入るときにはくつを脱ぐ習慣を守るようにしてください。また、室内でもくつ下がきれいかどうかを確認しておくとうれしいです。こうした小さなことに気をつけるだけで、日本人からのいんしょうがぐっと良くなるでしょう。

■店員に対してえらそうなたいどを取る

日本では、店員に対してけいれいを持って接することが求められます。店員は「お客様にサービスを提供する人」として仕事をしていますが、それは上下関係ではなく、あくまで対等な立場でのやりとりです。そのため、えらそうなたいどを取ると周りの人にも悪いいんしょうを与えることがあります。

私も以前、台湾での感覚でお店で店員に少しカジュアルに話しかけたことがありました。しかし、日本ではそのたいどが「失礼」と思われることがあると聞き、それ以来、ていねいな言葉遣いをいしきするようになりました。たとえば、店員がミスをして怒ったりきびしい言い方をするのはやめましょう。

日本では、かんしゃやていねいな言葉がとても大切です。何かたのむときは「お願いします」、お礼を言うときは「ありがとうございます」を使いましょう。そうすれば、良いいんしょうを与えることができます。

店員に対するたいどは、その人の人柄を表すとも言われています。日本で買い物や外食をするときは、店員に対してけいれいを持ったたいどで接するようにしましょう。そうすることで、自分も気持ちよく過ごすことができ、周りの日本人からもしんらいされるようになりますよ。

■車を運転中に無理なわり込みをする

日本では、道路での運転マナーが非常に大事だと考えられています。特に、無理なわり込みをする行為は「危険でめいわくな行動」と見なされ、多くの日本人にきらわれます。交通ルールを守ることはもちろんですが、周囲のドライバーや歩行者への思いやりを持った運転が求められています。

私が台湾で運転していたときは、わり込みがそれほど大きな問題とは感じませんでした。しかし、日本で運転をするようになってから、無理なわり込みや急に車線を変えることは、周りにストレスを与える行動だと気づきました。

一度、日本人の友人を車に乗せたときに急なわり込みをしまい、「少ししんちょうに運転したほうがいいよ」と注意されたことがあります。日本では、ウィンカーを早めに出して周囲に意図を伝えます。そして、譲ってもらった場合はハザードランプでかんしゃの意を示したりするのが一般的です。こうした小さなはいりよが、スムーズで安全な交通を作るために大切とされています。譲ってもらったときにハザードランプでかんしゃの意を示すなんてことは台湾ではないので、れいぎ正しい日本人ならではの文化だなと感心しました。

日本で車を運転する際は、急いでいるときでも他の車や歩行者にはいりよして、しんちょうな運転を心がけましょう。ルールを守るだけでなく、他のドライバーと良い関係を築くことで、安心して運転することができるはずです。

■順番待ちを無視してトイレやレジに割り込む

日本では、順番を守ることがとても大事だと考えられています。特に、トイレやレジでの順番待ちを無視して割り込むことは、周りの人にとっても悪いいんしょうを与えます。このような行動は「マナーが悪い」と思われるだけでなく、ときにはケンカなどのトラブルの原因にもなることもあります。

台湾では、おじいちゃんやおばあちゃんがときどき並んでいる列に割り込んでくることがあります。しかし、日本ではそれが大きなマナーいはんだと知り、初めはおどろきました。

日本では、どんなに急いでいる場合でも、順番を守るのが基本です。どうしても急いでいる場合は、後ろの人に一言「すみません、急いでいるのですが」とお願いするのが良いでしょう。

ただし、^{あいて}相手が^{どうい}同意しなければ、^わ割り込むことはやめるべきです。^{じゅんばん}順番待ちの^まルールを守ることは、^{ほか}他人への^{ひと}思いやりを^{おも}示す^{しめ}行動^{こうどう}でもあります。^{にほん}日本では、^{ちい}このような^{たいせつ}小さな^{ぶんか}マナーを大切に^{ふんか}する文化がありますので、ぜひ^いいしき^いしてみ^いてください。^{じゅんばん}順番を守ることで、^{まも}スムーズで^{きも}気持ちの^い良いやりとりができるで^いしょう。

「^{にほんじん}日本人が^{がいこくじん}きらいな^{こうどう}外国人の^{せん}行動20選」は^{らん}いかがでしたか。コメント欄から^{かんそう}感想を^{おし}みんなに^{おし}教えてください。

それでは、^{べつ}また別の^{どうが}動画で^あお会い^あしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

